2022 年度 奨学生入学試験

国 語

(試験時間 60分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、30ページあります。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。

① 試験コード欄・座席番号欄

試験コード・座席番号(数字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名・フリガナを記入しなさい。

- 5 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

10

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄									
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1～12)に答えなさい。

「二〇世紀とは、どんな時代でしたか」とたずねられたら、みなさんは何と答えるだろうか。僕は躊躇なく、「コンクリートの時代でした」と答える。

それほどに、コンクリートという素材と、二〇世紀という時代は、相性がびつたしだったのである。びつたしただけではなく、コンクリートという素材が、二〇世紀の都市を作り、国家を作り、文化を作った。その産物の上に、今も僕らは暮らしているのである。二〇世紀のテーマはインターナショナルイズムでありグローバルバリエーションであった。ひとつの技術で世界を覆いつくし、世界をひとつにすることがこの時代のテーマであった。物流、通信、放送、あらゆる領域でグローバルバリエーションが達成されたが、建築、都市の領域で、それを可能にしたのがコンクリートという素材だったのである。

【a】コンクリートは場所を選ばない。木の薄い板を組み立てて型枠を作る程度の技術は世界中どこにでもあったし、コンクリートの構成材料である砂、砂利、セメント、鉄筋は世界中どこでも入手可能であった。型枠の中に鉄筋を組んで、砂、砂利、セメントを流し込めば、それまでである。鉄骨の建築も、二〇世紀の産物ではあるが、鉄骨造はコンクリートに比べれば、はるかに難易度の高い、高度な技術であった。

(B)コンクリートほどに普遍的(グローバル)な建築技術は、かつて歴史上存在しなかった。だからル・コルビュジエは、インドの大平原のなかのチャンディガールのような場所で一九五〇年代に新都市を作る時にも、コンクリートを自由にあやつて、空に浮かぶ巨大な彫刻のような自由な造型ができたわけだし、一九七〇年代にルイス・カーンがバン格拉デシュの国会議事堂をタツカに作った時も、コンクリートを選択して、古代イセキのような姿の建築を作ったのである。わが日本の丹下健三だって、日本の伝統建築の木組みをソウキさせ(口)る傑作、香川県庁舎をはじめとして、その作品の大部分はコンクリートである。彼らは地域文化を尊敬し、風土を尊重する偉大な建築家ではあったが、それでも石造も、鉄骨造も木造も、そしてもちろんその地域に昔から伝わるローカルな工法も選ばなかった。

【b】この素材は、場所を選ばないという普遍性のみならず、どんな造型をも可能にするという、もうひとつの普遍性、別の言い方をすれば自由を有していた。型枠の作り方を変えるだけで、どんな曲面も自由に作れるし、もちろんストレートでシャープな骨組みを作ることも簡単である。

だから、^C建築を学びはじめたばかりの学生はコンクリートが大好きである。自分が作りたい形のリンカク線を描き、その線の内側はコンクリートがつまっていることにすれば、一応図面としての整合性はつく。鉄骨造や木造の図面を描こうと思つたら、そうはいかない。「ジョイントは^{注4}どうなっているんだ。収まってないじゃないか」とか、「これじゃ部材と部材の間隙だらけで、風も虫もどんどんはいつてくるじゃないか」と教師にどやしつけられる。そういう教師自身が、残念ながら実際に鉄骨造や木造の図面はひけない。それほどに、コンクリートは群を **X** 「易しい建築」なのである。

しかも、この形の自由さにプラスして、表層の自由というオマケもついてくる。豪華で、お金がかかったふうな建物にしたい時は、コンクリートの上に薄い石を貼り付ければいい。ハイテクっぽく、未来っぽい味付けをしたい時には銀色でシャープなアルミの板を貼ればいい。自然派、エコロジー派を気取りたい時には、木の板を貼り付けたり、珪藻土を薄塗りすればいいのである。^Dこれは学生が描く図面だけの話ではなく、実際の建築の施工の実情である。僕らをとり囲む建築物のほとんどは、そのようにして、コンクリートの上にいるいろいろな化粧をすることで、できあがっている。コンクリートは強くて、その上に何かを取り付けるのが、最も簡単な建築素材である。こんなお化粧ノリのいい材料は、他にない。その意味でも、最も普遍的な材料であり、それゆえに、あらゆるデザイナーの、あらゆるテイストに対して、コンクリートは自由に対応可能であるし、ローコストなものから高級建築まで、あらゆるグレード、コストに対しても、コンクリートは見事に、そのお化粧で対応するのである。

この施工方法は、コンピューターグラフィックスの最もポピュラーな技法であるテキストチャーミングとコクジ⁽⁼⁾している。コンピューターグラフィックスで建築を描く時、われわれはまずモデリングという作業からはじめる。直方体、球、シリンドーなど物体の形を入力するのがモデリングである。形態が入力し終わると、次その上にテキストチャーを貼り付ける。「大理石」というテキストチャーを貼ったり、「杉板」というテキストチャーをのせたりするのである。この操作がテキストチャーミングで

ある。現実の建築の施工方法がテクスチャーマッピング的であるので、コンピュータ上でも、この描き方が主流となる。さらに言えば、われわれの脳の中でも、「建築Ⅱコンクリート+お化粧」というさびしい公式が幅を **Y** いるのである。

それほど圧倒的な普遍性があり、しかもコンクリートはめっぽう強い建築素材でもある。地震にも強い、火事にも強い、虫に喰われることもない。そんな万能の素材が、二〇世紀に普及しないはずがなかった。普遍的であるとは、場所を選ばないということであり、また建築のテイスト（シンプルなものからデコラティブなものまで）、種別（住宅からオフィスまで）を選ばないことであり、しかもどんなコストにも対応できるということである。

しかし、場所を選ばないということは、逆に言えば、あらゆる場所をコンクリートというひとつの技術、その技術の裏にひそむ単一の哲学によって、同一化してしまうことである。そして、場所とは自然の別名に他ならない。多様な場所、多様な自然が、コンクリートという単一の技術の力で、破壊されてしまうのである。またテイスト、種別、コストを選ばないということとは、逆にいえば、多様な表面のお化粧のうしろ側には、コンクリートという単一の揺るぎない本質がひそんでいるということに他ならない。そのようにして、自然の多様性が失われただけでなく、建築の多様性も失われたのである。二〇世紀とは、**E** のようなさびしい時代であった。

さらにコンクリートの「強さ」についても、その「強さ」の質についても、われわれは注意深く、見きわめなくてはならない。コンクリートは突然にかたまるのである。それまではドロドロとしていた不定形の液体であったものが、ある瞬間、突然に信じられないほどかたく、強い物質へと変身を **Z** 。その瞬間から、もう後戻りがきかなくなる。コンクリートの時間というのは、そのような非連続的な時間である。木造建築の時間は、それとは対照的である。木造建築には、コンクリートの時間のよ^Fうな「特別なポイント」は存在しない。生活の変化に従って、あるいは部材の劣化に従って、少しずつ手直しし、少しずつ取りかえ、少しずつ変化していく。

逆な見方をすれば、**G** 二〇世紀の人々は、コンクリートのような不連続な時間を求めたのである。そのようにして、不定形なものを固定化することに、情熱を燃やしたのである。たとえば核家族が住まうための家を建てることに、二〇世紀の人々は懸命に

なった。二〇世紀の経済を下支えしたのは、「持ち家」への願望である。従来の地縁、血縁が崩壊し、近代家族という孤立した単位が、大きな海をヒョウリユウしはじめたのが二〇世紀であった。近代家族という不確かで不安定な存在に対して、何らかの確固たる形を与えるために、彼らは住宅ローンで多額の借り入れをしてまで、家を建て、家族を「固定」しようとした。あるいはコンクリート製のマンションとかたい器のなかに収容することによって、存在の不安定を「固定」しようとした。地縁、血縁が崩壊したことで不安定になってしまった自分を、コンクリートというがちがちのもので再びかためたいと願ったのである。同様に、国家も、自治体も、あらゆる共同体が、コンクリートによる固定化で明確な「形」を獲得することによって、その存在の不安定を、解消しようとした。解消したつもりになろうとした。「ハコモノ」とは、そのようにして作られた、かたい建築の別名である。そういう人々の欲求にコンクリートは、最適の素材であるかに見えたのである。

しかし実際には、不安定なものほど、うわべの固定化によっては救われない。不安定なものもつとも必要としているのは柔軟性のみである。固定化は不安定なものに不自然な足枷をはめるだけである。あるいは、コンクリートによる固定化は、もはや誰が必要としない無用の存在としての共同体に対する、さらなる不必要な出費であった。コンクリートとは消えゆく不安定なもの達の、断末魔の叫び声である。

(隈研吾の文章による。ただし、一部変更した。)

(注) 1 ル・コルビュジエ … フランスの建築家(一八八七—一九六五)。

2 ルイス・カーン … アメリカの建築家(一九〇一—七四)。

3 丹下健三 … 建築家(一九一三—二〇〇五)。

4 ジョイント … ここでは、部材と部材の接合部のこと。

5 デコラティブな … 装飾的な。装飾性に富んだ。

問1 空欄〔 a 〕・〔 b 〕に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解

答番号は

1

・

2

。

a

1

① だから

② しかし

③ 一方で

④ まず

⑤ ましてや

b

2

① 反対に

② しかも

③ それなのに

④ とはいえ

⑤ なぜなら

問 2

空欄

X

〽

Z

に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

解答番号は

3

〽

5

X

3

①

外れて

②

超えて

③

破って

④

乱して

⑤

抜いて

Y

4

①

きかせて

②

ひろげて

③

みたして

④

もたせて

⑤

ふかせて

Z

5

①

強いる

②

重ねる

③

はばむ

④

遂げる

⑤

およぼす

問3 波線部(A)「それ」とあるが、これは何を指すか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で

答えなさい。解答番号は 6。

- ① あらゆる領域でグローバル化を達成すること
- ② 世界をひとつにすることを二〇世紀のテーマにすること
- ③ コンクリートという素材を全世界共通の建材にすること
- ④ グローバリゼーションを進めて従来の障壁をなくすこと
- ⑤ 単一の技術を世界中で運用して世界を一体化すること

問4

波線部(B)「コンクリートほどに普遍的(グローバル)な建築技術は、かつて歴史上存在しなかった」とあるが、ここで筆者は「普遍的」という言葉をどのような意味で使っているか。その説明として適切ではないものを、次の①～⑤の中から二つ選び、記号で答えなさい。解答番号は

7

・

8

- ① 世界中のどこでも工事ができる
- ② 他の工法よりも難度が低い
- ③ 各地域の自然を反映しうる
- ④ 時代を超えて伝統を受け継いでいる
- ⑤ 多様な国や地域で採用されうる

問5 波線部(C)「建築を学びはじめたばかりの学生はコンクリートが大好きである」とあるが、これはなぜか。その理由として

最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

9

- ① ローカル工法では不可能だった造型が可能になるから
- ② 教師が鉄骨造や木造の図面をひくことができなから
- ③ 現場担当者の技術力に関係なく建物を作れるから
- ④ 形状の柔軟性が高いことに加え装飾も自在だから
- ⑤ 自分の意図にそった外観を自由に演出できるから

問 6

波線部D)「これは学生が描く図面だけの話ではなく、実際の建築の施工の実情である」とあるが、筆者は建築をめぐる状況について、どのように論点を組み立てた上で問題視しているのか。これについて説明した次の文章の空欄 I に入れるのに最も適切なものを、後の各群の ①～④の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は

10

12

III

10

12

コンクリートには「自由」という普遍性も備わっている。すなわち、どんな造型も可能にし、それに加えて I の
である。そのため、II。そしてその結果、III ことにつながっていく。

筆者は、こうしたことをコンクリートが圧倒的な普及力を持つ大きな要因であったと考え、論点を組み立てている。

I

10

- ① 外側に異種の素材を取り付けるのが非常に簡単だという特性がある
- ② 構造の共用でコストが低下したぶん外装を自由に選ぶ余裕ができる
- ③ 素材にお化粧をするだけでデザイナーの自尊心を満足させてしまう
- ④ 図面の作り方を変えるだけでどんな曲面でも自由に生みだせる

II

11

- ① 構造や造型を通して用途や機能を満たそうとする建築本来のあり方から離れ、外側に貼り付ける素材の差異で建築の個性を出そうとしはじめた
- ② すべての建築が、形態を最初に決めて、その上に貼り付ける素材を決めるというテクスチャーマッピング的な発想で設計されるようになった
- ③ 建築の施工において、建物の形と外側の装飾を分離して考え、後者の操作によってさまざまな用途や要求やデザイン意図に対応する手法が常態化した
- ④ 求めるテイストやグレードやコストに対応するため、素材の違いで建物の印象がどう変化するか可視化してくれるコンピューターの役割が増した

III

12

- ① 現実の建築の施工方法がバーチャルな表現に支配される
- ② 建築の描き方やとらえ方がコンクリートを前提に定型化する
- ③ 建物の外装を構造よりも上位にとらえる建築観が生まれる
- ④ 建築の個性は貼り付ける素材の組み合わせで発揮される

問7 波線部(E)「二〇世紀とは、そのようなさびしい時代であった」とあるが、「さびしい時代」とはどういうことか。その説

明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 13。

- ① コンクリートというひとつの技術が普及した結果、自然の多様性が失われる一方、コンクリートの表面に貼り付けた素材の力で建築の多様性が花開いた時代。
- ② どんな場所でも建てられ、どんな目的にも対応してしまうコンクリート建築の浸透で自然環境が破壊され、むき出しのコンクリートの存在だけが重苦しさを放っている時代。
- ③ コンクリート建築の爆発的普及によってまず自然や場所の多様性が否定され、さらにはコンクリート建築の均質性も暴かれるという、二重の否定で特徴づけられる時代。
- ④ 場所を選ばず、表層の操作によって多様な建築を実現するコンクリートの特性によって、かえって環境の多様性の否定や、建築の同質化が生じた時代。
- ⑤ 造型に素材を貼り付けることであらゆる建物は作れるという、コンクリートという技術に内在する哲学が、自然や建築の多様性を尊重する思想を打倒していった時代。

問 8 波線部(F)「非連続的な時間」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 14。

- ① コンクリート建築が完成するまでの間には、建材が突然液体から固体へと質的に変貌する特別な瞬間があるということ。
- ② 常に変化する木造建築とは違い、コンクリート建築では永遠に変わらない建物の形が瞬時に固定されてしまうということ。
- ③ 一度かたまったら最後二度と手直しのできない素材だ、という緊張感を持ってコンクリートを見きわめるべきだということ。
- ④ 不定形で軟弱な状態から一瞬で強い物質に変化するために、コンクリートの強さが逆に鮮明に印象づけられるということ。
- ⑤ コンクリートにはきわめて強固な物質に変化する瞬間があり、それ以降は変更を受け入れなくなるということ。

問9

波線部G「二〇世紀の人々は、コンクリートのような不連続な時間を求めたのである」とあるが、筆者の考えによれば、なぜそのように言うことができるのか。その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。

解答番号は 15。

- ① 二〇世紀の人々は、つながりを失って不安定になった自己や共同体に確固たる形を与えて安定させることに情熱を燃やし、住まいや施設を整えた。形態が一瞬で強固かつ不可逆的に確定されるコンクリートは、そのようなあり方に通じる最適な素材であったから。
- ② コンクリートは、不安定な状態から信じられないほど強くかたまる。家族や共同体から切り離されて不安に陥った二〇世紀の人々は、コンクリートのこの特性が、自己のこれ以上の不安定化を食い止め、確かな安定性を取り戻してくれるのではないかと希望を抱いたから。
- ③ コンクリート素材には、一度かたまったら二度とやり直しできないという厄介な性質がある。しかしそれが逆に、自己や家族、共同体が急速に不確かになった二〇世紀の人々には、個人個人のアイデンティティや多様性を守ってくれる頼もしい存在であるかのような幻想を与えたから。
- ④ 二〇世紀の人々には、既存のつながりが崩壊した結果、自己や共同体の存在が定まらないという苦しみがあった。一瞬で形態がかたまるコンクリート素材の建築は、人々を建築という器に収めることでその不安を解消し、不安定な自己を安定させるという役割を果たしたから。
- ⑤ 二〇世紀の人々は、コンクリート製の持ち家やハコモノを懸命に建てた。地縁・血縁を失った家族や共同体は実際にはもはや無用の存在であったが、堅固なコンクリート建築という器の中にある間は、自己の不安定な存在にも明確な形が与えられているように人々には感じられたから。

問10

筆者がコンクリートという素材についてどのように考えているかについて、本文全体を踏まえてまとめる時、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

16。

① 筆者は、コンクリートという素材について、批判的な立場で論じている。なぜなら、コンクリートは自然や建築の多様性を破壊するものであり、その多用は二〇世紀をさびしい時代にしただけの不要な出費でしかなかったと判断しているためである。しかし一方で、その考え方は人々がコンクリートを情熱的に求めた理由の説明がつかなくなるため、はつきりとした結論は出せない問題であるとも考えている。

② 筆者は、二〇世紀はコンクリートの時代であったという前提に立つ。コンクリートは歴史上存在しないほど普遍的で強い素材である一方、建築の多様性を弱めるという側面があるため、われわれはコンクリートの強さの質を注意深く見きわめないといけないとする。二〇世紀の人々はコンクリートを求めたが、精神的な固定化では救われることがなく、コンクリートにはその断末魔の叫びがこめられている。

③ 筆者は、コンクリートという素材に対して相反する二つの考えを持っている。まず、世界をひとつにし、造型や外見が自由で強く、どんな用途にも対応でき、各地域の自然や伝統を反映できるという点でコンクリートを肯定的にとらえる。一方で、建築の多様性を破壊し、かたまって強くなるという性質が人々の不安定性を救えずにうわべだけの固定化につながったという点では否定的にとらえている。

④ 筆者は、コンクリートを二〇世紀の要請に最もよく応える素材だったとする。しかし、その全世界的普及で場所や建築の多様性が失われたことも指摘する。そしてコンクリートは、従来のつながりを失い、不安定で不確かなものとなった近代家族や共同体に明確な「形」を与えようとする人々の志向に、その固定化という性質によって応えるように見えたが、人や社会の不安定性に対する本質的解決にはならなかったとしている。

⑤ 筆者は、コンクリートという素材が場所を選ばず、簡単かつ自由に造型でき、どんな要求にも対応するという普遍性に

加えて、強固であることも特徴であると明らかにする。しかし筆者は、その利便性の裏にある問題点こそ見きわめるべきだと考えている。すなわち、コンクリートによって木造建築の多様性が失われただけでなく、その強さは人々をひきつけたものの、個人や共同体の断末魔の叫びに応えられなかったという点である。

問11 二重傍線部(イ)～(ホ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答

番号は 17 ～ 21。

(イ) イセキ

17

- ① 法律上のフサクイ
- ② イフの念をおぼえる
- ③ 防災上のキヨウイとなる
- ④ 友人へのアイコンを晴らす
- ⑤ 老人ホームをイモンする

(ロ) ソウキ

18

- ① ネンキの入った働きぶり
- ② 会社のホツキ人となる
- ③ ハンキを翻す
- ④ 陣頭でシキする
- ⑤ ジョウキを逸した態度

(ハ) リンカク

19

- ① リンバンで警備を担当する
- ② 高い建物がリンリツする
- ③ 責任者が会議にリンセキする
- ④ リンリ的な判断を求める
- ⑤ 軒先にフウリンをつるす

(ニ) コクジ

20

- ① ジギに等しい振る舞い
- ② 祝典でシキジを述べる
- ③ ジヨウに富んだ食事
- ④ 人々のジモクを集める
- ⑤ 円周率にキンジする値

(ホ) ヒヨウリユウ

21

- ① 手を鳴らしてヒヨウシを取る
- ② 長年の疑問がヒヨウカイする
- ③ 洗濯物をヒヨウハクする
- ④ ヒヨウロウが底を突く
- ⑤ 未来を示すザヒヨウとなる

問12

コンクリートは、日本では明治時代から建築に使われてきたが、一九二三年の関東大震災で特に鉄筋コンクリート造の強さが注目されたこともあって、急速に定着していった。そうした中、一九四二年発表の『日本文化私観』において実用や機能に徹したコンクリート建築が固有の美を生んでいると評価し、第二次世界大戦後には『墮落論』を書いたことでも知られる作家がいるが、それは誰か。最も適切なものを、次の①～⑥の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

22

① 谷崎潤一郎

② 太宰治

③ 芥川龍之介

④ 永井荷風

⑤ 坂口安吾

⑥ 三島由紀夫

第2問 次の文章を読んで、後の問い(問1～6)に答えなさい。

漫画家の松本零士さんは高校を出たあと、福岡から上京した。所持品すべてを質に入れて金を **X** し、夜汽車に揺られた日のニュースを松本さんは覚えている。旧ソ連による世界初の人工衛星、スプートニク1号の打ち上げである。

陸橋で弟たちが手を振るのを見て、胸が詰まったという。夜汽車の旅立ちと宇宙へのまなざし **(ロ)** のちの人気作「銀河鉄道999」の原型はこのときに生まれたと、回想談にある(キネマ旬報社「家の履歴書」)。

この春、新社会人の皆さんが心に刻んだ光景やニュースは何だろう。コロナ一色の世相 **(イ)** にため息は尽きないけれど、「あのとき生まれた」何かをいつか、語れるといい。

iPS細胞を作製した山中伸弥さんは研修医のころ、簡単な手術にも手間取り「ジャマナカ」の異名を頂戴したそうだ。868本塁打の王貞治さんはデビューから26打席ヒットがなく、「三振王」とヤジ **(ニ)** られた。

〈春潮のあらぶるきけば丘こゆる蝶 **(ホ)** のつばさもまだつよからず〉(坪野哲久)。**Y** したてのチョウの目には、小さな水

たまりさえ嵐の海原に見えることがあるだろう。

(A) ノーベル賞学者や世界のホームラン王にだって「まだつよからず」のときがあった。焦ることはない。大いに手間取ろう。思 **(イ)** い切り三振をしよう。

『神戸新聞』二〇二二年四月三日 「正平調」による

(注) 旧ソ連 … ソビエト社会主義共和国連邦。現在のロシア・ウクライナ・ベラルーシなどの国々で構成され、一九九二年まで存在した連邦国家。

問1

空欄

X

に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

23

- ⑤ 工事
- ④ 工作
- ③ 工面
- ② 工合
- ① 工夫

問2 破線部ア「胸が詰まった」という状態を表す四字熟語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答え

なさい。解答番号は

24

- ① 画竜点睛りょうせうせい
- ② 呉越同舟
- ③ 臥薪嘗胆がしんしょうたん
- ④ 感慨無量
- ⑤ 茫然自失ぼうぜんじしつ

問3 破線部イ「世相」と近い意味の語句として**適当**ではないものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番

号は

25

① 色調

② 時勢

③ 風潮

④ 世情

⑤ 状況

問
4

空欄

Y

に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

26

。

- ⑤ 羽化
- ④ 産卵
- ③ 蛹よう化
- ② 発芽
- ① 孵ふ化

問5 波線部(A)「ノーベル賞学者や世界のホームラン王にだって『まだつよからず』のときがあった。焦ることはない。大いに

手間取ろう。思い切り三振をしよう」の解釈として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解

答番号は 27。

- ① どんなに能力の高い人でも、やはりその人なりの得意・不得意がある。門外漢から何を言われようと、自分の得意分野を伸ばしていけばよい。
- ② 大きな成果を挙げた人に共通しているのは、失敗を怖れなかったことである。失敗が大きければ大きいほど、最終的には巨大な成功へ近づきやすくなる。
- ③ 偉大な業績を挙げた人ですら、最初は失敗がつきものだった。すぐに完成度の高い仕事ができないからといって、恥じたりせずにどんどん挑戦してほしい。
- ④ 他者の能力を正確に評価することは、実はとても難しい。どんな分野においても、若手を育てるには周囲が長い目で見る必要がある。
- ⑤ とてつもない業績を挙げた人ですら、ときには誤解されることがある。まして凡人の我々は、他から悪く言われることを決して怖がってはならない。

問 6 二重傍線部(イ)～(ホ)の品詞名を、後の①～⑧の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は 28 。

(イ) 旧ソ連による

28

(ロ) のちの人気作

29

(ハ) あのとき生まれた

30

(ニ) 「三振王」とヤジられた

31

(ホ) チョウの目には

32

① 名詞

② 動詞

③ 形容詞

④ 連体詞

⑤ 副詞

⑥ 接続詞

⑦ 助詞

⑧ 助動詞